

泌尿器科後期研修プログラム

1. はじめに

箕面市立病院は、大阪大学医学部泌尿器科学教室の関連施設になっており、当院での泌尿器科後期研修は基本的に大阪大学と同様の基本方針をとり、「臨床医としての倫理観、および泌尿器科学の高度な知識と技術を修得した医師を養成すること」です。2年間の初期臨床研修ののち泌尿器科専門医をめざす医師を対象として、大阪大学医学部泌尿器科と当院を含む大学関連施設での4年間の専門医教育の具体的内容を定め、国際的レベルの泌尿器科研修と高い専門性をめざしています。最終的に、日本泌尿器科学会が認定する泌尿器科専門医の資格が得られるように後期研修プログラムを運営します。

箕面市立病院泌尿器科で後期研修を希望される方は、1～2年当院で前立腺癌・膀胱癌・腎癌・精巣癌などの尿路性器腫瘍、尿路結石、前立腺肥大症などの排尿障害を中心とした臨床泌尿器科の研鑽を積んでいただきます。その後は、個々の研修希望に応じて大阪大学泌尿器科関連施設の利用が可能であり、泌尿器科全般はもとより、尿路性器癌、腎移植、小児泌尿器科、尿路結石、アンドロロジー(男性不妊)、女性泌尿器科、排尿機能等のうち興味ある領域を専門施設で一定期間、集中的に研修することも可能となります。

2. プログラムの開始、研修施設間のローテーション、研修施設での職位について

基本的には4月1日開始を原則とし、期間は4年間(日本泌尿器科学会の定める専門研修期間)とし、1～2年毎に当院を含めた大阪大学泌尿器科関連施設をローテートしていただきます。職位は各施設によって多少異なりますが、箕面市立病院ではレジデントとなります。研修年数あるいは施設によっては常勤医となることもあります。また研究志望者は、後期研修期間に大阪大学大学院生となることも可能です。

3. プログラムに参加する後期研修医師としての必要事項

プログラム参加の資格として初期研修で以下の項目が達成されていることが必要です。

- (1) 患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な関係を構築できる。(患者-医師関係)
- (2) 医療チームの構成員として、他のメンバーと協調して医療に従事できる。(チーム医療)
- (3) 患者の問題点を的確に抽出し、問題解決のために行動できる。(問題対応能力)
- (4) 安全管理の基本を理解し、安全な医療を遂行できる。(安全管理)
- (5) 患者から正確な情報を収集するとともに、基本的な一般診察ができる。(医療実践)
- (6) 社会における医師の役割を理解し、種々の法令や倫理に従った正しい行動をとることができる。(医療の社会性)

4. 泌尿器科後期研修終了後

基本的には、各個人の希望に応じて大阪大学医学部泌尿器科教室が対応します。多くは、箕面市立病院泌尿器科も含めた大阪大学関連施設において、常勤医として勤務していただくこととなります。

研究希望者は大阪大学大学院生、研究生あるいはシニア非常勤医として、基礎研究に従事できます。また、Johns Hopkins Medical Institution、Harvard Medical School、NIH、UCSF等とい

った米国を中心とした留学（2-3年）を積極的に勤めています。

一方、大阪府下および阪神間を中心に約70名の大阪大学泌尿器科学教室同窓会会員が開業医として活躍しており、開業に際しても支援されます。

5. 指導医

菅尾 英木 副院長兼主任部長 東京医科歯科大学 昭和53年卒（尿路性器腫瘍）

泌尿器科学会認定専門医・指導医、大阪大学医学部臨床教授

古賀 実 部長 宮崎医科大学 平成元年卒（泌尿器科一般）

泌尿器科学会認定専門医・指導医、性機能学会専門医（評議員）

日本アンドロロジー学会（評議員）

高田 剛 部長 徳島大学 平成3年卒（尿路性器腫瘍、泌尿器腹腔鏡手術）

泌尿器科学会認定専門医・指導医、がん治療認定医機構がん治療認定医、泌尿器科学

会/日本EE学会泌尿器腹腔鏡技術認定医、内視鏡外科学会泌尿器腹腔鏡技術認定医

湊 のり子 医員 神戸大学 平成17年卒（泌尿器科一般）

泌尿器科学会認定専門医

6. おわりに

泌尿器科は腎、尿路、副腎、後腹膜、男性生殖器、上皮小体を対象とする外科学の一領域であり、専門医になるには手術に習熟する必要があります。箕面市立病院は規模の割には手術症例が多く、また尿路結石に関しては北摂地区ではいち早く平成元年に体外衝撃波結石破碎装置を導入していることもあり結石に関連した内視鏡手術や上皮小体腫瘍の手術など比較的多岐にわたる症例が経験できます。また当院を足掛かりに大阪大学医学部泌尿器科およびその関連施設での研修も可能ですので、箕面市立病院泌尿器科での後期研修を考えてみてはいかがでしょうか？